

カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト

－第Ⅲ・Ⅳ期に向けて－

代表者 入江航生（教育B 5年）
構成員 佐藤幸司（教育B 4年） 内山将太（教育B 5年） 本田祐一郎（教育M 1年）
黒田小真絵（農学B 4年） 古峠咲奈（教育B 4年）
河村直彦（教育B 4年） 河村朋彦（教育B 3年）
丸山航平（教育B 3年） 高橋涼（教育B 3年）
河相直幸（教育B 3年） 三上駿（教育B 3年）
橋本慎司（教育B 3年） 三好一平（教育B 3年）
原田勝（教育B 2年） 小見山晋吾（教育B 2年）
宗近亜美（教育B 2年） 笠原滋（教育B 2年）
永田結己（教育B 2年） 坂本真衣（経済B 3年）
南里真衣（経済B 2年） 濱口飛鳥（経済B 1年）

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、カンボジア・チョンカル群に於いて日本式の運動会を開催することでカンボジアの体育教育における体育授業の普及の先駆けになることを目的としている。また、日本の運動会のように保護者、地域の人々が観に来たり、出店が出たりといったような今だ「学校」というものが地域から疎外されているカンボジアの現状から「地域と学校のリンク」を狙った運動会の開催も一つの目標である。また前年度の1月に第Ⅰ期運動会を同群で開催している。今年度は、運動会が果たしてふさわしいものなのかという疑問も視野に入れ、現地で実際に日本式の体育授業を行う試みもある。そこで本プロジェクト「第Ⅲ・Ⅳ期運動会」を学生自らによって立ち上げボランティア活動として活動を開始した。

2. プロジェクトの内容

今年度のプロジェクトの内容は、主に学生による学習会の開催、他大学、高等学校へ赴いて講義・寄付活動の実施、実際にカンボジアへ渡航しての視察調査である。以下にこれまで行った活動のスケジュールを示す。

<これまでの活動スケジュール>

2013年

- 4月～ プロジェクト発足会
- 4月 「前回経験者による本活動の紹介」学習会の開催
- 5月 「運動会とは？」学習会の開催
- 6月 「カンボジア渡航について」学習会の開催
- 7月 プロジェクト係り決め
- 8月 「カンボジア視察調査」運動会開催予定校訪問・打ち合わせ
- 9月 「カンボジア視察調査」の報告会・全体学習会
- 9月 運動会国内リハーサル

3. 活動内容

(1) 学習会

「第Ⅱ期運動会」の反省と活動の紹介から始まり運動会の教育的価値、カンボジア渡航に向けての予備知識の習得、運動会開催にあたっての「運動会のスケジュール」「渡航のスケジュール」を話し合い、学習した学習会の開催を行った。特に視察調査報告後からの学習会は11月下旬に開催する予定の運動会について具体的な活動が始まり、日本式の運動会を実施することで工夫された運動会スケジュールを考案中である。

〈用具の修正〉

本年度はカンボジアで調達できるものを用具に使用することで、カンボジアでの現地の運動会ができるように用具の修正を行った。

ラインひき用の小麦粉→現地では大切な食料として扱われるため(現在代用品を模索中)
障害物競走で使用するピンポン玉→カンボジアでは調達できないため(折り紙で紙風船を作成し使用)
玉入れの球→中身が小豆であり食料であるため(現在代用品を模索中)

(2) カンボジア視察調査

8月31日から9月2日の3日間、実際にカンボジアへ渡航し視察調査を行った。調査内容は主に予め、開催を予定していた「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」への運動会開催の正式な許可を実際に校長先生と会い、得ることと、今回新たに運動会を開催する予定の新設中の小学校の運動場や校舎、校庭の正確な図面を測量し図化することであった。他にも運動会で使用する用具を製作する際の物品調達の可・不可の確認、第Ⅱ期で使用し現地においてきた用具の確認等を行った。

〈視察調査結果〉

- ・「チョンカル小学校」「チョンカル中学校・高校」の運動会開催の正式な許可
- ・新設中の小学校の図面
- ・物品の確認



チョンカル小学校の校庭の様子

4. 今後の課題

運動会開催校も決定し、いよいよ今後さらに具体的に計画を練っていく。現段階での課題は大きく3つ考えられる。「現地の人々への効果」については、具体的に子ども達に体育の面白さ、集団で競い合い協力し合うことの喜びと達成感を届けること、また現地の教員の方々には、現地に見合った内容と方法で運動会を企画・運営するノウハウを体験してもらうことであり特に我々は「現地に見合った」という点に重点を置いて運動会の営を考えなければならないと思っている。そこで、今回は日本式体育授業として、何らかの競技や種目をを用いてカンボジアで実際に授業を行うことを検討している。「学生スタッフ及び本学生への効果」については、カンボジアという開発途上国への教育支援を通じて我々が成長することと、山口大学生に国際協力のスピリットを広げていくことである。そのためにも今後一層、学内での寄付活動に力を入れるほか、学内における「プロジェクト報告集会」の開催を考えている。「県内地域への貢献」については、前回の渡航の際にも多くの寄付・寄贈をいただいたが、今回運動会開催校を増やすことによって必要な寄付物品数も増えている。このことから寄付・寄贈を呼びかけ、人々の温かい支援をカンボジアの子ども達に届けることが国際協力の架け橋になることと考えている。